



図5.23 中央値がネイピア数 $e$ になる対数正規分布（確率密度関数）の例

対数正規分布は、2つのパラメータ(定数 $\mu$ と定数 $\sigma$ )をもつ。この確率密度関数の分布は、 $\mu = 1$ で固定し、定数 $\sigma$ を $\sigma = 2$  (黄緑),  $1$  (青),  $0.7$  (赤),  $0.3$  (黒)として描いたものである。 $\sigma$ が大きいと右肩下がりのべき分布に近く、 $\sigma$ が小さいと $e=2.7$ 付近のシャープな分布に近づく。分布の中央値は $e^\mu = e^1$ として計算されるため、 $2.7$ 付近になる。